

昭和二十年終戦

農被れ雨の昼餉の田螺汁

田螺掘る童に八ヶ岳全貌を

あまばれの風吹き十寒月澄めり

秋耕や八ヶ岳風雲をまといたつ

麦蒔きの飼葉をきざむ楯明り

有明海陣地にて

我出征の日、泰元謙讓ともに病む

ゆく夏の海へ落月子等ははや

九月二日復員、九日二男謙讓逝く一歳六ヶ月

おくつきにしたゝる星座秋隣る

秋海棠咲けば偲ばる子となりし

秋祭（十一月二十三日）青年がお紺屋（篤君宅）にて

芸人を招く、その宿をたのまれて

芸人を泊めて更けゝり秋祭

芸人に夜食の膳を運びけり

食用油自給計画

南にうつる陽低し菜種植う

昭和二十年十二月三十一日、かくして敗戦の年暮るる
アナウンス悪夢とぞいう年暮るる

大八ヶ岳チャツの新雪麦蒔了りけり

稲架を解く冬雲は垂れ光りなし

冬隣る雨蕭条と骨休め

芥火の朱金美し暮早く

閑談の焚火のいつか時雨くる

新藁の俵に置きし蜜柑かな